

別紙2-3 (様式2)

18・19年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな	いしかわけんりつはくいこうぎようこうとうがっこう
学校名	石川県立羽咋工業高等学校

校長名：松井 廣

I 学校の概要

1 学校・地域の特徴

確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成することと、地域企業との連携を深め、広い視野に立って社会に貢献できる人間を育成することが本校の特徴である。

2 学校の概要 (平成19年5月1日現在)

課程	学科	3年	
		学級数	生徒数
全日制	建設造形科	1	40

II 研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

授業において外部人材や団体等を生かし、生徒は我が国の小舞下地土壁塗工法を体験し、左官の技について学ぶ。また、教員もこの指導方法について研究を深める。

(2) 研究のねらい

四脚門の建設を通して、左官と本校生徒とが連携を深めながら、技術指導を受ける。

2 研究の取組概要等

(1) 取組の概要

建設造形科建築コースの3年生11名を対象に、課題研究と実習の時間を利用して、地元の左官から昨年度に作った四脚門の壁用の小舞下地の作り方と土壁の塗り方を学ぶ。

(2) 指導の実際

3月25日に能登半島地震が起き、震災復旧作業で能登地域の大工・左官・屋根屋等の職人がほとんど駆り出されて左官の指導者がなかなか見つからなかったが、5月より竹藪

から竹を切る作業を始め、竹を運搬し小舞竹の製作の準備をした。

6月に昨年度指導して頂いた南 良夫棟梁の紹介で、地元の左官の関塚清助氏に四脚門の左官工事の指導を依頼した。

7月から竹を割り小舞竹の加工をした。この作業は竹を工具で割りナタで削ったりする為、安全面を考えて作業するよう指示した。

この後に関塚氏から小舞竹の組み方の指導を受け、11月中旬までかけて生徒と教員で四脚門の壁面に小舞竹を編んだ。この作業は生徒にとって思った以上に大変であった。

11月に関塚氏から下塗である荒壁塗の指導を受け、壁の両面に荒壁土を鏝で塗っていた。特に柱際に鏝先を使って荒壁土を押し込むように塗り込ことが大切な点であった。

12月に関塚氏に中塗をやって頂いた。生徒が作った小舞下地には凹凸があり、補修しながら塗らなければならなかった為である。

1月に関塚氏にコテガードを上塗りして頂き、寒冷期の為シートで四脚門を養生した。

3 成果と課題

職人の情熱と姿勢を間近に見ることで、伝統文化の継承に対する生徒の意識が高まった。また、この事業を通して本校と地域企業・職人の方々との繋がりが更に深まった。

課題として、これから四脚門を教材として活用していく上での実習内容や指導法の確立が挙げられる。今後は四脚門を建築教育の教材とし建築コースで有効に活用していきたい。また、伝統文化の知識・技術を備えた職人の後継者育成に今後とも取り組んでいきたい。



中塗後の四脚門



荒壁塗をする生徒

Ⅲ 指導事例

都道府県・指定都市名 石川県

学校名 石川立羽咋工業高等学校

教科等	課題研究	学年	3年	単元名	小舞壁の下地製作（作品製作）
単元のねらい		平成18年度に新築した四脚門の壁に小舞下地を作るという課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。			
取り扱う伝統文化		我が国の伝統的な小舞壁の下地を作る			
◇単元の概要					
<p>(1) 左官における小舞下地土壁塗工法について興味・関心を持つことができる。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 我が国の伝統的な小舞下地土壁塗工法の小舞壁の下地を左官と高校生と一緒に作ることにより、ものづくりの楽しさと難しさを学ぶ。【知識・理解・技能・表現】</p>					
◇単元の指導計画（全4時間）					
時間	主な学習内容	学習活動等	教師の指導	取組体制等(外部人材の活用等含む)	
0.5	・竹を割る工具の使い方を学ぶ。	・竹を割る工具（ナタ・鑿・ノコギリ・鉋等）の取扱いを学ぶ。	・学習活動への参加の状況が良いか確認する。	・工具の取扱いを指導する。 【左官・教員による指導】	
1.5	・小舞竹を製作する。	・工具を使って、竹を割る。 ・割った竹をナタで2cmの間渡し竹に製作する。1cm幅の小舞竹も製作する。	・工具の取扱いが正しいか確認する。 ・服装・実習態度がきちんとしているか確認する。 ・手を切らないように軍手をさせ安全教育を徹底させる。	・工具の基礎的な知識・技術を身に付け、発展させることができる。【知識・理解】 ・小舞下地に興味・関心を持っているか。【関心・意欲・態度】 ・安全教育を指導する。【教員の指導】	
1.5	・足場として三脚を利用する。 ・間渡し竹に、小舞竹をしゅろ縄で格子状に搔き付ける方法を学ぶ。	・三脚の高さが、2m未満となるようにする。 ・しゅろ縄の螺旋巻きと正しい結び方を学ぶ。	・安全教育を徹底する。 ・間渡し竹に、小舞竹にしゅろ縄で格子状に搔き付いているか確認する。 ・小舞竹を螺旋巻きする時に手を切らないよう細心の注意を払う様指示する。	・安全教育を指導する。【教員の指導】 ・小舞下地の表面が凹凸が少なく出来ているか確認する。【技能・表現】 ・小舞竹にしゅろ縄が螺旋巻きに正しく結んであるか確認する。【左官による指導】	
0.5	・整理・整頓をする。	・工具・小舞竹・しゅろ縄の後片付けができていないか確認する。	・工具の確認をする。	・責任感を育成する。【意欲・態度】	
◇本事例による成果と課題					
<p>(1) 外部人材や団体、教材開発等に関して 我々が子供の頃、田舎で行われてきた我が国の伝統的な小舞下地土壁塗工法の施工を通して、専門的な知識と技術の深化・建築技術の変遷を学び、伝統文化の継承に生徒の意識が高まったことが大きな成果であったと思われる。また、課題として小舞下地の製作を左官の指導のもとで行ったが、小舞下地の表面が平らでなく凹凸もあり、次の工程の荒壁塗に影響を与え生徒にとってはかなり難しかったと思われる。</p> <p>(2) 生徒の活動状況等に関して 竹藪から切り出してきた竹を割って小舞竹を加工し、小舞壁の下地を製作したが、生徒にはどの作業もはじめてのことで刃物を工具に使うため安全教育には細心の注意を払っていたが、それでも2・3人は指に切傷を負っていた。そして、生徒が三脚の上で間渡し竹に小舞竹をしゅろ縄で格子状に搔き付ける作業を本当に楽しそうに行っていたことを大変印象深く感じた。</p>					

